

## A 小学校

県北部にある各学年3～4クラスの中規模校である。平成27年度から平成29年度における全国調査の結果では、国語、算数ともに県偏差値に上昇傾向が見られた。

国語では、「中学生からのアドバイスを基に書く」（平成29年度全国調査B問題）の設問において、県の平均正答率が31.2%であるのに対し、同校は40.8%と約10ポイント高く、「書くこと」に関して顕著な結果が出ていた。

また、算数では「小数の減法（ $8.9 - 0.78$ ）」（平成27年度全国調査A問題）や「小数の除法（ $18 \div 0.9$ ）」（平成28年度全国調査A問題）等、A問題を中心に奈良県の平均正答率を上回る結果が見られた。

### 言語活動の充実

同校は、平成26年度から平成28年度までの3年間、国語科における「話すこと・聞くこと」をテーマとして研修を進め、全校を挙げてスピーチに取り組んだり、「声のものさし」を掲示したりするなど、統一した指導を行ってきた。平成29年度からは「書くこと」を研修のテーマとし、引き続き全教員の共通理解の下、言語活動の充実に取り組んでいる。

国語科で研修したことが、他の教科においても生かされ、言語活動の充実を意識した授業が展開されている。

例えば、算数科では、単元で学習したことをB4判1枚の新聞にまとめる活動を行っている（図1）。また、学習したことを川柳にする活動も行っており、廊下に掲示して他の学級の児童と交流している（図2）。

これらの取組のように、学習内容を振り返る際に、単元で何を学び、何が分かったかを言語化して児童の学びを整理することは、学習内容の確実な定着のために参考となる。



図1 算数新聞

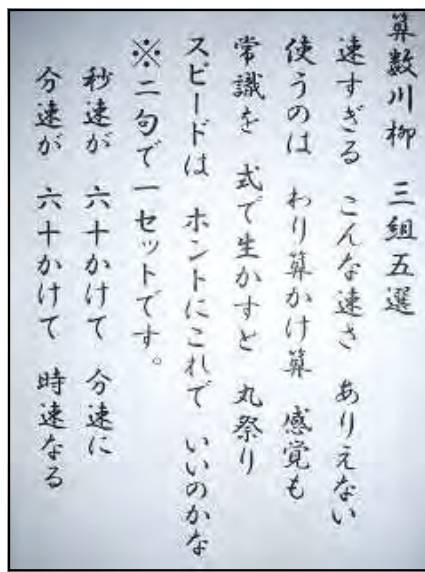


図2 算数川柳



国語科だけでなく、全ての教科等で言語活動を充実させることは、児童の思考力・判断力・表現力等を高める上で重要です。A小学校では、様々な書く活動を取り入れ、児童の学びを整理し、その成果を積極的に交流しています。

### 国語科における「書くこと」の指導の工夫

国語科での指導の工夫として、6年生では、漢字テストで新出の漢字だけを書かせるのではなく、文全部を書かせるようにしている。句点や既習の漢字等も書く必要があるため、児童は文脈の意味を考えながら漢字を書く力を身に付けている。

同校は平成29年度から「書くこと」を研究主題として研修を進めている。例えば、6年生は様々な書く活動を取り入れ、児童が楽しみながら書けるよう工夫をしている。また、個人差に対応するため、書くことが苦手な児童には、考えたことを話してから書くなど、児童一人一人の得意なことを生かす指導を心がけている。また、教材研究を進め、指導に効果的な教材・プリント類があれば学年で共有して使うようにしている。



「知識・技能」を単に知っているだけでなく、実際の生活で使えるようにすることが大切です。文脈を意識して漢字を書く、適切な方法を自ら選択して効果的に書くなど、これからの学びに必要な能力を、学年で共有するとともに、同一歩調で指導することが重要です。

第3章 第1節 参照

### 課題や指導方法の共通理解

全国調査について、自校の結果を整理した資料を職員会議で配布し、児童の現状と課題について、全教員で共通理解している。校内の研修は、研究推進部（①職員研修・②教育活動・③基礎学力）を中心に進められている。定例の研究推進部会では、国語科の実践を通して見えてきた課題について話し合っている。1学期の実践からは、児童の語彙が少ないことが課題として挙げられ、これを受け、児童の語彙を増やす取組を各学年で進めている。

例えば、4年生が「社会見学で訪れた平城宮跡大極殿のことを3年生に伝えよう」という単元に取り組んだ際、大極殿の様子を「すごい」という言葉を使わずに表現するよう指導している。具体的に使わせたい言葉を「言葉見本」として示し、参考にさせながら書く活動を行った。

算数科の指導においては、児童の実態を把握した上で、指導方法を次の学年の教員に引き継いでいる。特に、基礎・基本を定着させることを意識した授業展開を重視し、算数が苦手な児童が学習に興味をもてるよう、視覚的に分かりやすい教具の工夫にも取り組んでいる。また、学習のつながりを「これは何年で学んだことかな。」「今、学習していることは、生活の中にいっぱいあるよ。」というように、既習事項や日常生活、他教科での学習とつなげて児童にも意識させ、理解を深める指導を進めている。



児童の実態を把握し、教員間で、現状と課題を共通理解する仕組みを校内研修体制として構築しています。その上で、児童が興味をもつ授業の工夫や基礎・基本を重視した丁寧な指導を進めていることが分かりました。指導方法等についての共有・連携も児童の学びを確かなものにする手立てとなっています。



## B小学校

県北西部にある各学年1クラスの小規模校である。算数における学力向上が顕著で、「小数を交えた四則混合計算(6+0.5×2)」(平成29年度全国調査A問題)では、県の平均正答率より20ポイント以上高い83.3%となっている。基礎・基本となる計算力の定着が窺える。

国語の「メモや意見を基に書く」(平成29年度全国調査B問題)設問でも、正答率が62.9%と県の平均正答率より約20ポイント高く、「書くこと」に関する力が高い。

また、算数、国語とも無解答率が低い傾向にある。

同校では、学力調査等から児童の課題を分析し、その改善に向けた指導を進めようとする意識が全教職員で共有されており、全校体制で学力向上に取り組んでいる。

課題の分析 → 教職員の共通理解 → 改善に向けた取組の実施

### チャレンジタイム【朝の学習】

3年前から実施しているチャレンジタイムでは、曜日ごとに「算数」「読書タイム」「国語」「早朝体育」「算数・国語」の内容で学習や活動を行っている。「算数」「国語」「算数・国語」はプリント学習が中心となるが、具体的な内容は学年の実態に合わせて考えられており、例えば「国語」では平仮名や漢字だけではなく、句読点や主語・述語、四字熟語、10マス作文、視写など「書くこと」に重点を置いたプリントも活用している。「算数」では、学力調査結果の分析を基に、前学年までの学習内容もプリントに盛り込んでいる。また、全国調査、奈良県調査の設問形式に慣れたり、類似問題に取り組んだりする時間も設けている。

チャレンジタイムのプリントは、前学年から持ち上がったファイルに各自が綴じ、各月末に家庭に持ち帰って、保護者に取組の様子を知らせている。



学力調査の分析結果を、プリントの作成、選択に生かしています。学力調査の分析結果を12月初旬に先生方に示して共有することで、3学期の授業に活用したり、冬休みの教材作成に生かしたりしています。

### 学習規律の共有【学校で！家庭で！】

学力向上には、落ち着いた環境での学習や家庭学習の充実が欠かせないことから、学校と家庭で学習規律を共有する取組を行っている。

- ・「〇〇っ子 10の学習ルール」(図1)

落ち着いた学習環境の構築に大切な事柄を10項目にまとめ、「〇〇っ子 10の学習ルール」として全学級に配布して掲示し、指導を徹底している。主なものは、「チャイムで席に着く。」「えん筆を正しく持ち、ていねいに大きな字を書く。」「人の話をしっかりと聞く。最後までしっかりと話す。」「持ち物をそろえる。」などであり、更に具体的な視点も付け加えて示している。

- ・「家庭学習のポイント」(図2)

域内の小・中学校では、家庭学習の充実のために、全ての学校で家庭学習のポイントをまとめた文書を家庭に配布している。内容は各学校に任されており、同校では、各学年ごとに児童用と保護者用を作成し、保護者用は4月の懇談会で配布、説明している。児童用では、「べんきょうをするまえに」「こんなことをやってみよう」として学習前にすべきことや様々な学習例を紹介している。保護者用では、「身に付けたい力（目標）」「学習内容の特色」を保護者に知らせたり、「この時期の子どもは…」「家庭での援助」として家庭学習における保護者へのアドバイスを示したりしている。



図1 10の学習ルール

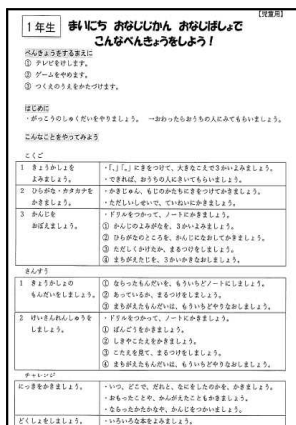


図2 家庭学習のポイント



全ての学年・学級で継続して取り組むことで、学習規律が身に付きます。この時期の子どもの特徴や家庭での援助を具体的に示すことで、保護者にも取り組みやすいものとなります。

**校内研修【みんなで授業づくり】**

校内研修は、「研究授業」と「環境整備」を二つの柱として取り組んでいる。研究授業は低学年と高学年の2グループに分かれて行うが、「授業者がたたき台をつくり、グループで検討する」という形ではなく、最初からグループ全員が授業づくりに関わるようにしている。このことにより、授業づくりのスキルが全員のものになり、授業づくりへの意識が高まる。研究授業当日は、講師を招聘して研究協議を行う。その際、付箋（参観中に記入）を活用し、それらを基にグループで協議をしている。教員が意見を出しやすく、限られた時間の中、同じ質問の付箋をまとめることで講師に聞きたいことが絞りがやすくなり、研修が深まる。環境整備は、教材作成などを夏季休業等を活用して全員で行っている。



当該学年だけではなく、全教員が関わることで、授業づくりのスキルが共有できます。また、教員間の結び付きが強くなり、より効果が高まります。

**校長先生より**

学力・学習状況調査結果を見ると、本校は無解答率が低いと感じる。その理由は、一つは設問形式に慣れておくことで、見通しがもてること、もう一つは、学習に限らず、何事においても最後まであきらめずに取り組むことを教員が大切に指導していることではないかと考えている。普段からの学習規律の徹底、生徒指導が大切である。



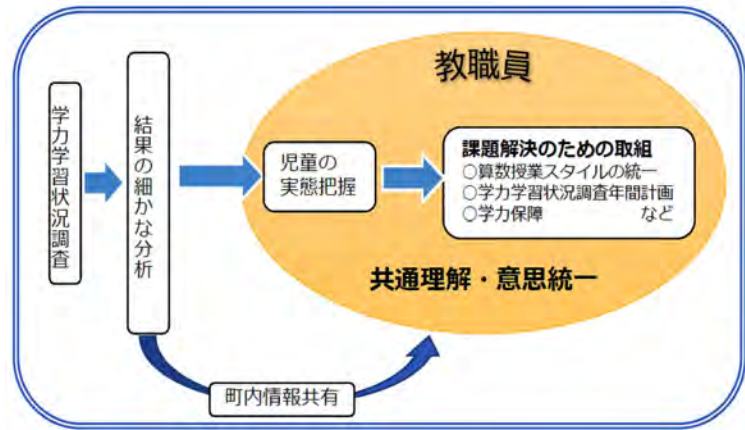
何事にも最後まで粘り強く取り組む子どもを育てることにより、様々なところで花が開きます。日頃の一つ一つの声かけが、子どもにとって大切な栄養です。

## C小学校

県南部にある、各学年1クラスの小規模校である。校区が広く、児童の一部はバス通学をしている。同校は、平成27年度奈良県調査実施学年集団の平成29年度全国調査における算数の学力の向上が特に顕著であった。

学力・学習状況調査の結果を分析し、児童の実態を把握、課題を明らかにしている。解決に向けた取組を全教職員が共有し、全校体制で取り組んでいる。

また、取組については、域内全ての学校で情報を共有し、各学校の取組に生かしている。



### 算数授業スタイルの統一

算数科の基本的な授業の流れ（見通し・練り上げ・考察・振り返り）を全学年で統一し、6年間を通して一貫性のある指導を行うようにしている。

教員ごとに指導が違わないよう、「算数科 計算等の操作統一指導一覧」（図1）を作成し、それを基に筆算等の指導を行っている。

また、算数の授業に関しては、少人数指導の教員等の担当時間を工夫することで全学年で複数の教員が指導に当たるようにし、きめ細かな指導を行っている。

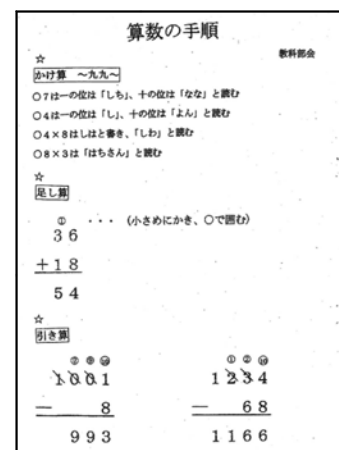


図1 算数科 計算等の操作統一指導一覧



学力調査の分析結果から明らかとなった児童の実態を教職員間で共有し、学校全体で課題を把握するよう努めています。そうすることで、教員ごとの指導にぶれがなく、学校として統一感のある取組を行っています。

### 学力保障

子どもたちの基礎・基本の力を育むために、下校時の通学バスの時刻までの時間（約40分間）を活用して、学力保障の取組を行っている。基本的には授業中に取り組んだ問題や宿題等のやり直しを行う。ときには、家庭とも連携しながら、個別の課題に取り組むこともある。担任だけでなく、そのとき関われる教員が子どもたちの指導に携わり、学校全体で子どもたちの学力保障に取り組んでいる。

また、学校だけでなく、家庭においても学習習慣を定着させるために、低・中・高学年ごとに「家庭学習の手引き」（図2）を各家庭に配布することで、啓発も行っている。

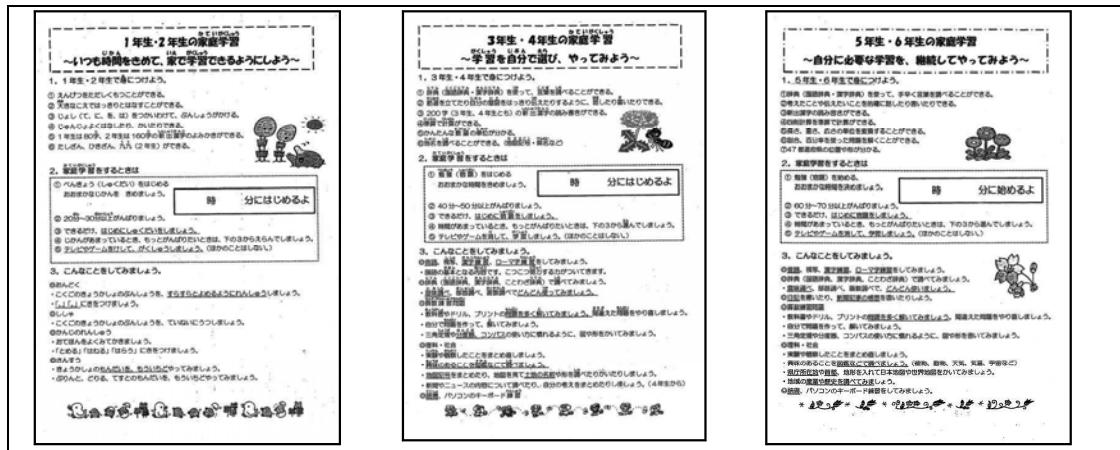


図2 家庭学習の手引き



児童の力を伸ばすために、下校バスまでの隙間時間を有効に活用しています。また、個別指導が、一人一人の課題克服だけでなく、教職員の児童理解につながっています。

学力・学習状況調査を軸にした年間計画の作成

学力・学習状況調査を軸にした年間計画を作成し(図3)、一年間を通じて見通しをもった指導を行っている。

さらに、教育委員会主催の学力・学習状況調査に関する会議が年間4回行われており、各学校の取組やその成果、課題についての協議や情報交換を行っている。



見通しをもつことで、教員が児童の学力向上を意識して日々の学習活動に取り組むことができます。また、域内の学校の情報共有により、自校の取組の参考とすることができるだけでなく、小学校にとっては、中学1年生の調査結果は、小学校での取組の成果や課題について考察するための資料であり、自校の取組の検証改善に生かすことができます。

学年	取組	指導要領	評価
4	基礎学力向上委員会 1日1コマ 10分1コマ 15分1コマ	算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合	基礎学力向上委員会 算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合
5	基礎学力向上委員会 1日1コマ 10分1コマ 15分1コマ	算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合	基礎学力向上委員会 算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合
6	基礎学力向上委員会 1日1コマ 10分1コマ 15分1コマ	算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合	基礎学力向上委員会 算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合
7	基礎学力向上委員会 1日1コマ 10分1コマ 15分1コマ	算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合	基礎学力向上委員会 算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合
8	基礎学力向上委員会 1日1コマ 10分1コマ 15分1コマ	算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合	基礎学力向上委員会 算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合
9	基礎学力向上委員会 1日1コマ 10分1コマ 15分1コマ	算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合	基礎学力向上委員会 算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合
10	基礎学力向上委員会 1日1コマ 10分1コマ 15分1コマ	算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合	基礎学力向上委員会 算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合
11	基礎学力向上委員会 1日1コマ 10分1コマ 15分1コマ	算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合	基礎学力向上委員会 算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合
12	基礎学力向上委員会 1日1コマ 10分1コマ 15分1コマ	算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合	基礎学力向上委員会 算数・国語 英語・音楽 体育・保健 総合

図3 年間スケジュール表

その他

学校生活に関するきまり等(授業時における学習規律や学年ごとの使用ノート、給食配膳の仕方等)を冊子にまとめ、4月当初に職員間の意思統一を図っている。



学習だけでなく生活に関する部分も含めて、教職員がチームとなって指導を統一し、目指す子ども像に向けた取組を行っています。